

## 子どもの笑顔が絶えない世界

3年4組5番 岡村 咲輝  
3年5組36番 柳下 澄香

Keyword: 「子ども」「笑顔」「遊び」「騒音問題」

### 1. はじめに

近年、子どもの外遊び時間の減少が問題になっている。「子どもの健全な成長のための外遊びを促進する会」の調査によると、子どもの外遊びの時間が1981年から2016年の35年間で30%以上減少していることが分かった。外遊び減少の理由としては主に2つ挙げられる。1つは「遊び場の減少」であり、近隣住民とのトラブルによって、公園の閉鎖やルールによる規制が問題になっている。2つ目は、「インターネットの普及」である。TVゲームやSNSが充実したことにより室内遊びが増えていることも、子どもの成長に確かな悪影響を与えている。そこで私たちは、子どもたちの健康と安全に遊べる場所を守るために、ボランティアに積極的に参加し、新しい外遊びを作るチーム「Let's play outside」を提案する。

### 2. 序論

子どもが外で遊ばなくなると、子どもの元気な声が無くなり地域の活気が無くなってしまふ。子どもが外で遊ばなくなると子どもにとっても、地域にとっても良くないことであると考へた。また子どもの外遊びの時間が減少することにより、子どもの体力、視力、コミュニケーション不足という個人個人の問題が増加してくるだろう。現状としてこれらの問題が挙げられている。ではどのようにすればそのような問題が解決できるのだろうか。

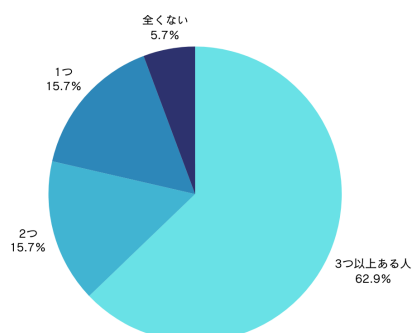
また実際の現状はどうだろうか。現状を把握するために全体として子どもの外遊び時間がどれくらいなのか文献調査を行った。「子どもの健全な成長のための外あそびを推進する会」（外あそび推進の会）によると、この40年で子どもの外あそびの時間は半減している。

例として1981年は約2時間11分だったことに対して2016年は約1時間12分であった。このことから、子どもの遊び時間が減少している現状には実際に様々な要因がある。高校生の私たちが直接的に解決することは難しいが、どうすれば子どもがより遊べるようになるか間接的に解決出来るかどうか考へていく。

### 3. 本論

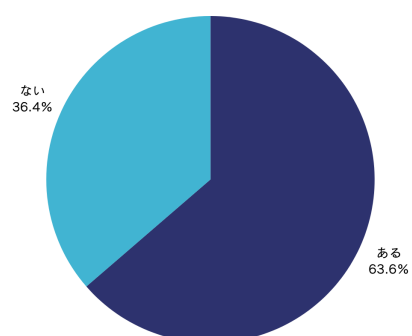
まず始めにアンケート調査を行った。  
規制問題についての現状を知るための「公園」についてのアンケートである。

#### **家から10分以内にある公園の数**



ひとつ以上あると答えたのは約66人

### ひとつ以上あると答えた66人に対して公園の規制の有無



グローバル探究の時間を使い、本校高校3年生に向けて行なったアンケートには70人が回答してくれた。回答によると、70人中66人が公園があると答え、66人中44人と半分以上が公園に規制があると答える結果となった。規制の内容としては、ボール遊び、スケボー、花火の禁止が挙げられる。これらから、規制問題が私たちの近くで起きているということが分かった。

また、アンケート調査の他にNPO法人MSISKの元ボランティア活動を行った。活動内容は「子ども食堂募金」である。阿倍野駅前14時から17時までの3時間募金活動を行った。結果として、私たちの募金協力者50名という予想を遥かに上回る142名の方に募金をして頂く形となった。子ども連れの募金者も多い事が分かった。これらの結果を経て、意外にも多くの方が子どもたちのことを気にかけている事が分かった。また、今回集まったお金は、NPO法人MSISKが運営する子ども食堂の食費や会場の経費にあてられる。

#### 4. 結論

実際、公園の規制問題が身近にあることが分かり、それを解決する手段や公園以外の子どもの遊び場について深く考えることが出来た。アンケートでは半数以上が公園に規制があることを知り、ボランティアでは、子どもの居場所が家や学校、公園以外にあり、その場を支援する人がたくさんいる事を知った。

また、今回行うことが出来なかった新しい外遊びを提案することにおいては、本校の近くの幼稚園、保育園に赴き私たちが考えた遊びを一緒にしたいと考えていたがそれが出来なかったことを私たちの計画不足とし反省する。「Let's play outside」は子どもたちの笑顔と居場所を守るために作られたチームである。今回の反省を生かし、これからもたくさんのボランティアに参加し、企業や地域の人との交流を深め、子どもの笑顔を増やす輪を繋げてい

きたい。そうして出来た輪を活用して、子どもたちと大人と一緒に遊ぶ機会を発信していくことをこれからの目標にする。

## 5. おわりに

現在の公園に関する知識や現状を詳しく知り、子どもの遊び場を守るために私たちが何をしたいのかを考える事ができた。特にボランティア活動を実際にする事で、子ども食堂への関心も深まり、機会があれば現地に赴いて支援したいと思えた。NPO法人MSISKのように子どもの居場所を守る場が周りにはたくさんあること、それがもっと広く広まってほしい。今回できなかった計画においても、次にボランティアに参加する機会があったときに子どもたちと楽しく遊べるように「Let's play outside」としてこれからもいろんな遊びの計画を練っていきたいと思う。

今回のテーマを通して、支援する場や人の温かみを知った。私たちもその優しさを持ち続け、これからも積極的に募金をしたり、ボランティアに参加していきたい。「子どもの笑顔が絶えない世界」そんな場所が増えることを私たちは願っている。

## 6. 参考文献・出典

前橋 明

子どもの健全な成長のための外遊びを促進する会<https://kodomo-sotoasobi.com/about/#:~:>

10月18日